

山口県立

総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

糖尿病患者のQOL維持を目指して



2022.5 Vol.48

- ① 中村統括副院長挨拶 勤務医の働き方改革について ② ③ ④ 特集 糖尿病患者のQOL維持を目指して
⑤ 看護部通信 PAEってご存知ですか ⑥ 地域医療連携ニュース コロナ禍でも動きを止めない退院支援 / 院長だより
⑦ インフォメーション 県民公開講座開催予定、広報番組放送予定、編集後記 外来診察担当医表(別紙)

LEADER's

INTERVIEW

統括副院長
中村 康彦

勤務医の 働き方改革に ついて



(株)電通の過労自死事件をきっかけに、長時間の時間外労働が社会問題となり、一般企業では2019年に厚労省主導による働き方改革が始まりました。勤務医への対応には時間を要するとの事情から、5年間の猶予が与えられましたが…。勤務医を雇用している病院や外部に当直医派遣を依頼している病院は、その準備(労基署の宿日直許可)が整っていますか？

勤務医は、原則として年960時間／月100時間以内の時間外労働が上限です(A-水準)。例外としてB-水準(三次救急医療、へき地医療、兼業、副業)やC-水準(研修医、専攻医)があり、上記対象者の時間外労働の上限は、年1,860時間／月100時間以内です。ただし、B・C-水準の医師には、24時間当り9時間の勤務インターバルを、さらに連続勤務は28時間までとなっており、その後は9時間の勤務インターバル+代償休息(初期研修医には更なる制限)が必要です。病院管理者は、どの診療科のどの医師がどの水準に相当するか(産休・育休や夜勤免除の医師の時間外勤務をカバーする医師の問題もあります)を調査し、2022年中に時間外労働時間縮減への改革案を含む申請書の提出が求められます。2023年度に外部委員による評価の承認を受けて、2024年度より勤務医の働き方改革が動き出します。毎年の労働時間短縮へ向けた取組と評価、3年毎の外部調査と水準適応の更新を繰り返し、2036年度のB-水準なしへ移行しなければなりません。病院側の働き方改革への対応が急務であるとともに、その改革の先は、勤務医の『滅私奉公』時代も終焉を迎えることでしょう。



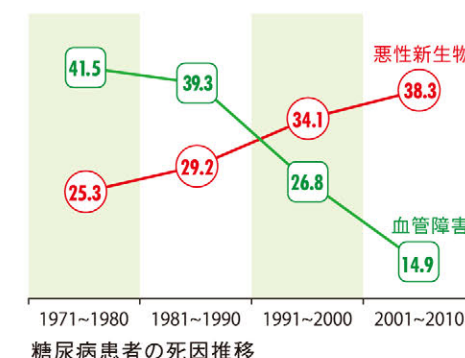
特集

糖尿病患者のQOL維持を目指して

～がんを見逃さない～

■糖尿病患者の死因推移

がんは日本人の死因の第1位で、生涯のうちがん罹患する割合は、男性65.0%、女性50.2%であり、2人に1人はがんを経験することになります。糖尿病患者の死因も、1990年代からは血管障害を抜いてがんが第1位となっています。糖尿病治療において、細小血管合併症(神経障害・網膜症・腎症)や動脈硬化性疾患(虚血性心疾患・脳血管障害・末梢動脈疾患)といった慢性合併症の発症・進展の抑制が重要です。加えて、糖尿病患者の健康寿命を延ばすためには、がんの予防、早期発見、早期治療も大きなポイントになります。



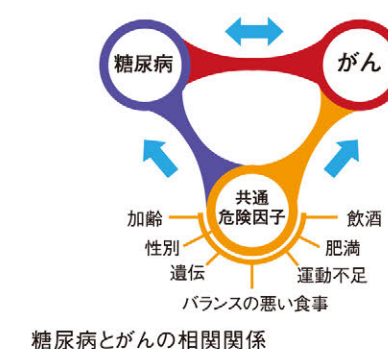
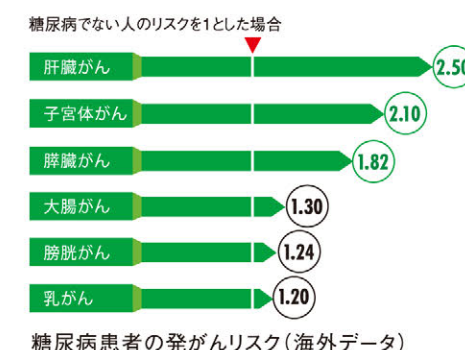
■発がんリスクとの相関関係

近年、糖尿病患者はがん罹患しやすいことが報告されています。糖尿病患者における発がんリスクとして、海外の研究では、肝臓がん、子宮体がん、膵臓がん、大腸がん、膀胱がんなどの関連が示されています。日本人でも、肝臓がん、膵臓がん、大腸がんのリスクが、それぞれ1.97倍、1.85倍、1.40倍となっています。糖尿病とがんは、ともに生活習慣の影響を大きく受ける疾患であり、バランスの悪い食事、肥満、運動不足、アルコール多飲などの生活習慣は共通の危険因子となります。

つまり、糖尿病患者の生活習慣改善は、がんの予防にもつながります。また、糖尿病患者のがんを見逃さないため、以下のことに特に注意しています。

- ①意図しない体重減少
- ②貧血の進行
- ③説明できない血糖コントロールの悪化

最後に、患者さんには定期的ながん検診をおすすめしています。



内分内分泌科診療部長

竹田 孔明 (たけだ こうめい)

日本糖尿病学会 糖尿病専門医・指導医
日本内分内分泌学会 内分代謝専門医・指導医

我が国の糖尿病患者数は1,000万人を超え、特に高齢者の割合が増加しています。糖尿病患者が継続して適切な医療を受けられるように、各診療科の連携、専門医とかかりつけ医の連携が重要になっています。当院では、多職種の医療スタッフにより、個々の患者さんに適した治療を提供するように努めています。当院に紹介して良かったと思っていただけるような診療体制を継続して参りたいと思っていますので、お困りの症例がありましたら是非地域医療連携室へご紹介ください。



◎QOLとはクオリティ・オブ・ライフ(Quality of Life)の略称で、「生活の質」や「人生の質」という意味です。

糖尿病教育入院 教育プログラム予定表(例)

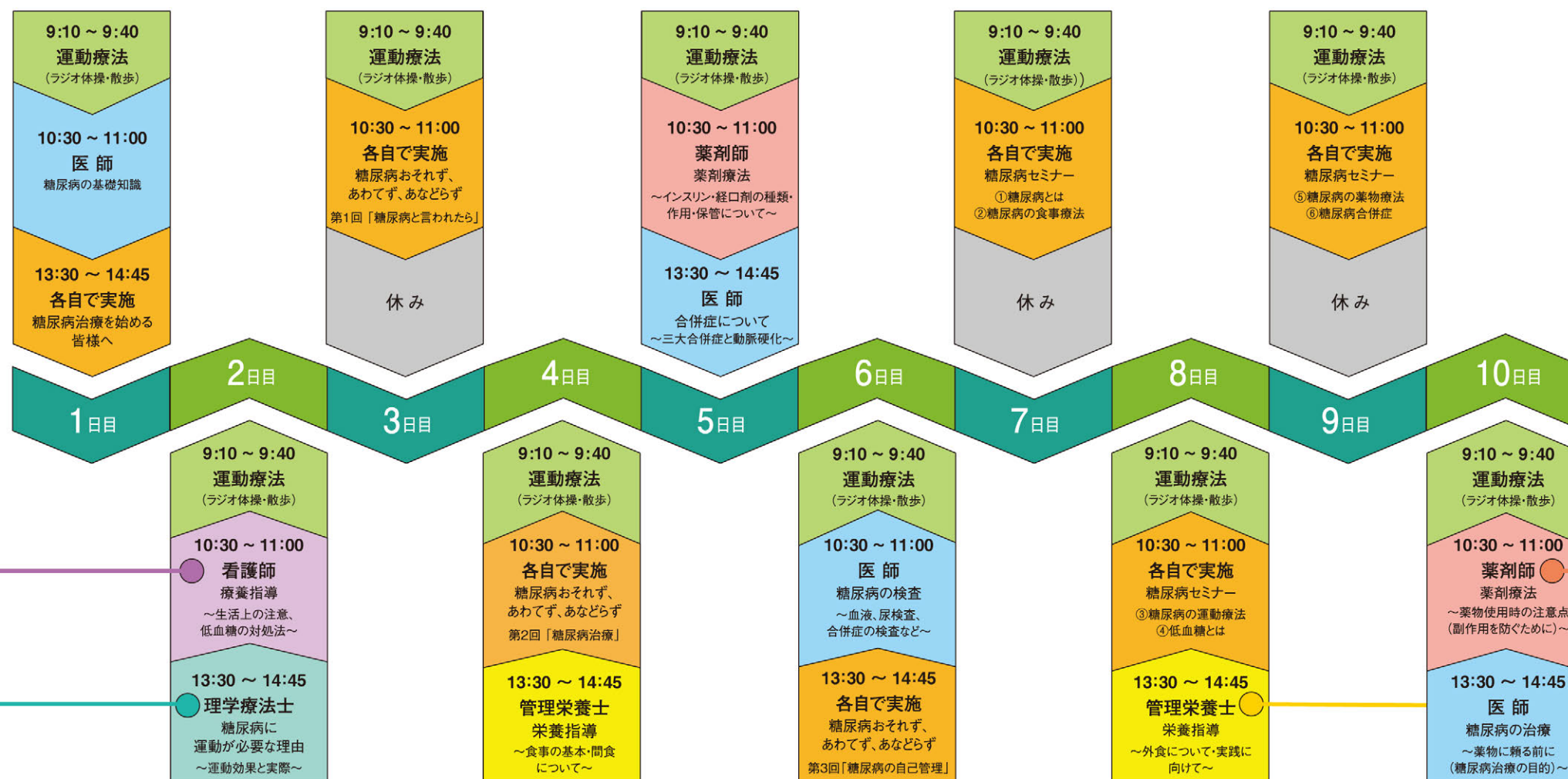
※約2週間(期間中の2回の土日はお休み)



療養指導



運動療法



- 運動療法
- 医師
- 各自で実施
- 薬剤師
- 看護師
- 理学療法士
- 管理栄養士
- 休み



薬物療法指導



栄養指導

●教育入院体制について

当診療科では、かねてから地域の先生方からご紹介いただいた患者さんに対して、糖尿病患者教育、治療方針の見直し、合併症・併存症の精査を行っています。

糖尿病教育入院では、地域の先生方や患者さんのご要望に応じて、約2週間の教育プログラムに沿って、糖尿病教育、検査、治療方針の決定を行います。

入院中は、多職種のスタッフが参加するカンファレンスを適宜行いながら、個々の痛態に応じた適切な治療を進めるとともに、糖尿病治療に必要な知識を習得できるようチームで支援します。退院時には、検査結果や今後の治療方針についてご報告をさせていただきますので、今後の診療にお役立ていただければ幸いです。

また、指導水準の均一化を図るため、定期的にスタッフに対する勉強会を行い、効果的な糖尿病療養指導が出来るように努めています。



多職種カンファレンス



院内勉強会

●外来における診療および療養指導について

当診療科は月～金曜日まで毎日外来を担当していますので、ご紹介いただく際は、患者さんのご都合の良い日をご指定ください。

療養指導については、外来栄養指導を積極的に行っています。

また、専門の看護師がフットケア外来を担当し、糖尿病患者の足病変の早期発見・早期治療が出来るように努めています。



フットケア外来

「糖尿病友の会」について

当院には、糖尿病の患者さんとその家族、医療スタッフで構成する「あゆみ会」という患者会があります。あゆみ会では、当院のスタッフ(医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、歯科衛生士)から、糖尿病に関する様々な知識を学ぶことが出来ます。また、共通の目的を持った仲間との交流を深めることにより、一人では途切れがちな治療を意欲的に継続していくことが出来ます。



患者会「あゆみ会」の様子

看護部
通信

「PAE」ってご存知ですか？

認定小児アレルギーエディケーター 看護師 景山 佳子

近年、小児のアレルギー疾患において、ガイドラインの普及による治療の均てん化が進み、小児喘息児ではほぼ健常児と同じように日常生活が可能となっています。また、アトピー性皮膚炎では、早期の皮膚症状の改善が食物アレルギー発症の予防にもつながることがわかってきました。これらのアレルギー疾患は長期に自己管理を必要とし、治療環境を整えるなど丁寧な患者教育が必要とされています。そこで、高度なアレルギーの専門知識を習得し、医師とともに患者教育や家族への支援が行えるよう「小児アレルギーエディケーター（PAE）」認定制度が開始されました。

PAEの具体的な役割や活動として、①患児や家族、医療者と治療目標を共有し、アレルギー疾患の症状の適切なアセスメント（※1）とコントロールへの支援、②アレルギー疾患の患児や家族へのアドヒアランス（※2）向上のための患者教育・指導・助言、③治療・療養過程で体験する患児や家族への精神的支援、④円滑な療養環境を維持するため、多（他）機関、

各職種間の調整や連携・協働、⑤アレルギー疾患に関するメディカルスタッフへの相談や助言・教育などが含まれます。

現在、私は、週1回のアレルギー相談や、医師とともに学校職員への緊急時の対応やエピペン使用方法の指導、山口県教育庁の「学校におけるアレルギー疾患対応委員会」への参画、アレルギー疾患で入院している患児や家族への指導・助言などを行っています。当院には栄養士のPAEもいますので、2人で連携を取りながら活動しています。今年度は新しいPAEが誕生する予定で、今まではなかなか実現できなかったさまざまな活動を計画しています。まだまだ未熟ではありますが、医師とともに、地域のアレルギー対応の質の向上や、患者教育を通して治療、生活管理のアドヒアランス向上を目指した指導に取り組み、山口県の子供たちがアレルギー疾患で悩むことなく、健やかに育っていけるよう貢献したいと考えています。

【注釈】

※1アセスメント…対象者から得た「主観的情報」と医療者の観察から得た「客観的情報」を解釈・統合しながら、対象者を取り巻く看護上の問題点を理論的に分析すること。

※2アドヒアランス…患者・家族が納得して主体的に治療に関わること

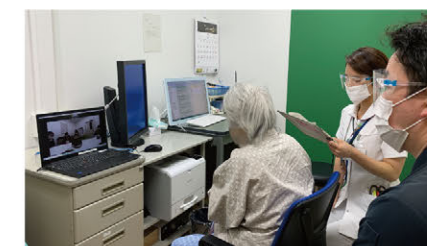


オンラインを活用して外部の事業所と繋ぐ

コロナ禍でも動きを止めない退院支援
～患者の安全を守る退院前会議の模索～

新型コロナウイルス感染症の流行により、これまで当たり前だった対面による面会や会議ができなくなりました。しかし、そういった中でも顔と顔を合わせた会議が必要な場面はあります。昨今、ZOOMに代表されるオンライン会議システムの活用が広まりつつありますが、クリニックや介護事業所等でその環境が無いということもよく耳にします。

そこで、当院では、患者さんが入院する病棟と院内の医療相談室を繋ぎ、オンラインでの退院前会議を実施



病棟と相談室を繋ぐ

しています。2つの場所をオンラインで繋ぎ、患者さんは病棟内から、家族や地域のケアマネジャーは1階の医

療相談室から参加してもらって会議を行います。オンライン特有の「間」やリアリティさに欠けることもありますが、患者さんの意向を直接聞き、意思決定を図れることや、歩行動作などの身体機能を見ていただくこともできるため、活用する中で困難さとともに有効性も実感できています。

とはいえ、当院に来院せずとも、クリニックや介護事業所等から会議に参加していただけるのが、このオンライン会議システムの本来の利点です。クリニックの先生方の参加にあたり、設定や設備について不明な点等がございましたら、出来る限り解決に努めてまいりますので、当院の地域連携室までお問い合わせいただけましたら幸いです。

お問合せ先 地域医療連携室・医療相談室

電話/0835-22-5145(直通) メール/soudan@ymghp.jp

クリニック
介護事業所など

当院

患者さんが入院する
病棟家族・地域のケアマネジャー
医療相談室（院内1階）院長
だより

春本番の季節到来である。心ときめく季節のはずであるが、新型コロナウイルスとの闘いが難攻している。その上、世界の政治・経済の動きも予断を許さない状況が続く。このような中、報道でもあったとおり、当院の建て替え計画が具体的に動き出した。職員みんなで知恵を絞って理想的な基幹病院であると周りから評価してもらえる医療機関となるよう、夢の実現に向けて邁進していきたい。



武藤 正彦



やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)



放送日時	放送内容	出演
6月4日(土) 18:55~19:00	チームで取り組む糖尿病診療	内分泌内科 竹田 孔明 医師
6月8日(水) 16:00頃~		
7月2日(土) 18:55~19:00	消化管がんに対する 内視鏡治療	消化器内科 岡本 健志 医師
7月6日(水) 16:00頃~		

令和4年度 県民公開講座の開催予定

開催日時	テーマ	出演	会場(集合型)
7月23日(土) 14:00~15:00	関節痛	整形外科 椎木 栄一 医師	当院2階 大会議室
8月20日(土) 14:00~15:00	肺がん	外科 林 雅太郎 医師	
9月17日(土) 14:00~15:00	内視鏡検査と治療	消化器内科 岡本 健志 医師	
10月22日(土) 14:00~15:00	糖尿病	内分泌内科 竹田 孔明 医師	

今年度の県民公開講座は従来の会場参加型とweb参加型のハイブリッド式で開催予定です。

受講料無料

【会場参加型】とは 事前申込必要 (定員30名)



【web参加型】とは

事前申込は不要。当院ホームページに設置する専用タブをクリックし、参加できます。



編集後記

総

務課では例年3月、4月は業務のピークを迎えます。業務時間外になると小腹がすくので、頭の栄養と正当化しつつ、つつい食べ物に手が伸びる日々が続いています。業務が落ち着いてきたら、バランスの良い食事と睡眠・運動を心掛けて、少しでも糖尿病になるリスクを減らせるように努力していきたいです。(総務課 Y. N)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



地方独立行政法人
山口県立病院機構

山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymgph.jp/>